



ヴィジュアル版

# 世界の 特殊部隊

戦術・歴史・戦略・武器

マイク・ライアン

*Mike Ryan*

クリス・マン

*Chris Mann*

アレグザンダー・

スティルウェル

*Alexander Stilwell*

小林朋則 [訳]

THE ENCYCLOPEDIA OF THE  
WORLD'S  
SPECIAL FORCES:  
TACTICS, HISTORY, STRATEGY, WEAPONS



ヴィジュアル版

# 世界の 特殊部隊

戦術・歴史・戦略・武器

THE ENCYCLOPEDIA OF THE  
WORLD'S SPECIAL FORCES:

TACTICS, HISTORY, STRATEGY, WEAPONS

マイク・ライアン クリス・マン  
*Mike Ryan* *Chris Mann*  
アレグザンダー・スティルウェル  
*Alexander Stilwell*  
小林朋則 [訳]

原書房

ヴィジュアル版  
世界の特殊部隊  
戦術・歴史・戦略・武器



2004年2月25日 第1刷

著者……………マイク・ライアン

クリス・マン

アレグザンダー・スタイルウエル

訳者……………小林朋則

装幀者……………川島進 (スタジオ・ギブ)

発行者……………成瀬雅人

発行所……………株式会社原書房

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-25-13

電話・代表 03(3354)0685

<http://www.harashobo.co.jp>

振替・00150-6-151594

本文組版・印刷……………株式会社デイグ

カバー印刷……………株式会社明光社

製本……………小高製本工業株式会社

ISBN4-562-03727-X ©2004, Printed in Japan

# 目次

序文 アメリカ空軍特殊作戦軍団マイク・マッキンニー少佐 1

陸の特殊部隊	3		
アイルランド	4	韓国	52
陸軍レンジャー部隊		707 特殊任務大隊	
アメリカ	5	キューバ	54
アメリカ特殊作戦軍団 (USSOCOM) / ア メリカ陸軍特殊作戦軍団 (USASOC) / 第 75 レンジャー連隊 / グリーン・ベレー		特殊任務コマンドー部隊 (CME)	
アルジェリア	19	ギリシア	54
アルジェリア空挺コマンドー師団		ギリシア軍特殊部隊本部	
アルゼンチン	20	コロンビア	56
陸軍第 601 および第 602 旅団 / ファルコン 特殊作戦班		ランセロス / 都市特殊部隊グループ (AFEU)	
イギリス	20	サウジアラビア	58
特殊空挺部隊 (SAS) / 特殊舟艇隊 (SBS)		特殊部隊旅団	
イスラエル	34	シリア	59
サイエレット・ゴラニ / サイエレット・マ トカル / サイエレット・ツァンハニン		第 14 特殊部隊師団	
イタリア	38	スイス	59
特殊介入部隊 (GIS)		FSK-17	
イラク	40	スウェーデン	60
共和国防衛隊 / サダム挺身隊		特殊防衛グループ (SSG)	
イラン	42	スペイン	61
特殊部隊師団		外人部隊	
インド	43	台湾	63
特殊レンジャー部隊		第 1 特殊部隊グループ	
エジプト	43	中国	64
第 777 任務部隊		第 6 特殊戦グループ / 第 8 特殊戦グルー プ / 第 12 特殊戦 SF 分遣隊	
オーストラリア	45	チリ	66
特殊空挺連隊 (SASR)		空挺部隊第 1 大隊 / 対テロ部隊 (UAT)	
オーストリア	49	デンマーク	67
警察機動コマンドー部隊 (GEK) 「コブ ラ」 / ヤークトコマンドー部隊		イエーガー部隊	
オランダ	50	ドイツ	68
特殊支援部隊 (BBE)		コマンドー特殊部隊 (KSK) / 第 9 国境警 備隊 (GSG-9)	
カナダ	51	トルコ	72
第 2 統合任務部隊 (JTF-2)		第 1、第 2 および第 3 コマンドー旅団	
		日本	74
		特殊部隊 (SAT)	
		ニュージーランド	74

ニュージーランド特殊空挺中隊		特殊偵察チーム (ESR) / 特殊介入中隊 (ESI)	
ノルウェー	76	ポルトガル	91
フィンマルク第7イェーガー中隊		特殊作戦グループ (GOE)	
パキスタン	77	南アフリカ	92
陸軍特殊任務部隊——SSG (A)		南アフリカ特殊部隊旅団	
フィリピン	78	モロッコ	94
特殊部隊連隊 (空挺)		近衛連隊	
フィンランド	79	ヨルダン	95
遊撃中隊		SOU17	
ブラジル	80	リビア	97
第1特殊部隊大隊		共和国防衛隊	
フランス	81	レバノン	97
外人部隊/特殊作戦軍団 (COS) / 独立特殊グループ (GSA) / 国家憲兵隊介入部隊 (GIGN)		第101パラシュート中隊	
ベルギー	90	ロシア	99
		スベツナズ	

## 対革命戦 107

アメリカ	110	と OAT)	
デルタ・フォース/第11任務部隊		オーストリア	137
アルゼンチン	119	警察機動コマンドー部隊「コブラ」	
ファルコン特殊作戦班		オランダ	138
イギリス	119	陸軍コマンドー部隊 (KCT) / 特殊支援部隊 (BBE)	
特殊空挺部隊 (SAS) / SO19 小火器班 (ロンドン警視庁)		カナダ	139
イスラエル	127	第2統合任務部隊 (JTF-2)	
サイエレット・ゴラニ/サイエレット・マトカル/カエサレア		韓国	139
イタリア	130	警察特攻隊 KNP 868	
特殊介入部隊 (GIS) / 治安作戦中央部隊 (NOCS)		コロンビア	140
インド	132	ランセロス	
国家治安警備隊「ブラック・キャッツ」(NSG)		シンガポール	141
インドネシア	133	特殊作戦部隊	
第81分遣隊		スイス	142
エストニア	134	シュテルン	
特殊作戦グループ (SOG)		スウェーデン	142
オーストラリア	135	国家警察介入部隊 (ONI)	
戦術突入グループと洋上突入チーム (TAG		中国	143
		特殊作戦部隊	
		チリ	144
		対テロ部隊	

デンマーク	144	GIGN (国家憲兵隊介入部隊) / EPIGN (国家憲兵隊空挺介入部隊) / RAID (国家警察特別介入中隊)
行動部隊		
ドイツ	144	
第9国境警備隊 (GSG-9)		
日本	146	ベルギー
特殊部隊 (SAT)		特殊介入部隊 (ESI)
ニュージーランド	147	ポーランド
第1特殊空挺中隊 (SAS)		緊急対応作戦グループ (GROM)
ノルウェー	147	南アフリカ
国家警察即応部隊 / 国防特殊コマンドー部隊 (FSK)		警察特殊任務部隊
フィンランド	148	メキシコ
オサスト・カルフ (熊部隊)		F部隊「ソロス」
ブラジル	148	ヨルダン
第1特殊部隊大隊と対テロ分遣隊		特殊作戦部隊
フランス	149	ロシア
		アルファ・グループとベータ・グループ

## 海の特特殊部隊 161

アメリカ	162	韓国	189
アメリカ海軍 SEALs / SBS および SDV チーム / 海兵隊偵察部隊		海兵隊 / SEALs	
アルゼンチン	173	北朝鮮	190
水陸両用コマンドー部隊 / 戦術潜水部隊		水陸両用軽歩兵旅団	
イギリス	175	キューバ	191
特殊舟艇隊 (SBS)		海軍特殊部隊 (FEN)	
イスラエル	179	ギリシア	192
シャイエテット 13		水中爆破部隊 (MYK)	
イタリア	182	コロンビア	193
水中工作・襲撃コマンドー部隊「テセオ・テセイ」(COMSUBIN)		水陸両用コマンドー部隊 (GCA)	
インド	184	スウェーデン	194
海兵隊コマンドー部隊 (MCF)		沿岸イエーガー部隊 / 攻撃潜水班 / 基地警備中隊	
インドネシア	184	スペイン	195
水陸両用偵察パラコマンドー部隊 (KIPAM)		特殊作戦部隊 (UOE)	
オーストラリア	186	タイ	196
オーストラリア特殊空挺連隊 (SASR) / 戦術突入グループ (TAG) / 洋上突入チーム (OAT) / 掃海潜水員支隊 (CDB)		海兵隊偵察大隊および SEALs	
オランダ	188	チリ	197
特殊舟艇隊第7小隊		戦術潜水部隊	
		デンマーク	197
		フロッグマン部隊	
		ドイツ	199

戦闘水泳中隊 (KSK)		マンドー・ユベール / 近接戦闘部隊 (GCMC) / 水中作戦介入分遣隊 (DINOPS)	
トルコ	201	ベルギー	212
水中防衛部隊 (SAS) / 水中攻撃部隊 (SAT)		第14パラコマンドー工兵中隊	
ノルウェー	202	ペルー	213
海軍イエーガー・コマンドー部隊		特殊作戦部隊 (FOES)	
パキスタン	203	ポーランド	214
海軍特殊任務部隊 (SSGN)		GROM 特殊舟艇部隊	
フィリピン	204	ポルトガル	215
特殊戦グループ (SWAG)		特殊活動分遣隊 (DAE)	
ブラジル	206	マレーシア	216
戦闘潜水部隊 (GRUMEC) / 奪回・救出特殊グループ (GERR / MEC) / 水陸両用コマンドー大隊 (COMANF) 「トネレロ」		バスカル	
フランス	208	ロシア	217
海軍歩兵コマンドー軍団 (COFUSCO) / コ		スベツナズ	

## 空の特殊部隊 221

アメリカ	222	フォルゴレ空挺旅団	
第82空挺師団 / 第101空挺師団 (航空強襲) — 「スクリーミング・イーグル」 / 第160特殊作戦航空連隊 (SOAR)		オランダ	242
イギリス	230	第11空中機動旅団	
第16航空強襲旅団 (AAB) / バスファインダー小隊 / パラシュート連隊 / イギリス空軍第47飛行隊 (特殊部隊飛行班)		スペイン	242
イスラエル	238	スペイン空挺旅団 (SAB)	
5707部隊 / シャルダグ (5101部隊) / パラシュート偵察サイエレット		フランス	243
イタリア	241	第11空挺師団 / 空軍第10空挺コマンドー部隊	
		ベルギー	244
		空挺コマンドー旅団	
		ロシア	246
		空挺部隊 (VDV)	

## 特殊部隊の訓練 251

アメリカ	255	ドイツ	273
デルタ・フォース		コマンドー特殊部隊 (KSK)	
イギリス	264	南アフリカ	274
特殊空挺部隊 (SAS)		特殊部隊旅団	
用語解説	279	訳者あとがき	288
USSOCOM 組織図	284	部隊名索引	290
SAS 組織図	287	索引	293

## 序 文

特殊部隊は、軍事史の中で特異な位置を占めている。通常の軍事理論の周縁で活動するため、任務の詳細はあかさされないことが多い。だが、残念ながらこの秘密主義のため、戦局に与える影響を誤解されてきた。特殊部隊を投入すれば目の覚めるような戦略的效果をあげることができるし、現にその証拠となる作戦が、エンテベ [ウガンダ南部の都市。1976年、この空港でパレスチナ過激派のハイジャックする飛行機にイスラエル軍特殊部隊が突入した]、ソントイ [ベトナム北部の町。1970年、ベトナム戦争でアメリカ軍特殊部隊が、ここにあった捕虜収容所を強襲した]、エベン・エマエル [ベルギーの町。軍事要塞があり、第2次世界大戦中の1940年、ドイツ軍パラシュート部隊が83名で強襲して占拠した]、サンナゼール [フランス西部の港町。1942年、第2次世界大戦でイギリス軍特殊部隊がここにある造船所を襲撃した] の各地で行なわれてきた。いま列挙した活動は、軍事史の謎とされた特殊作戦任務のごく一部にすぎない。特殊部隊のこうした特異な能力の一端は、アフガニスタンで実施された「不朽の自由」作戦でもかいま見られた。アメリカ特殊部隊の兵士が馬に乗り、北部同盟の兵士とともに戦場に向かう様子を撮影した写真を見れば、こうした優れた技能をもったプロの兵士に多種多様な能力が求められることが分かる。数か国から集まった特殊部隊は、直接攻撃、特殊偵察、心理作戦、不正規戦、空挺強襲などさまざまな任務を実施して、タリバンとアルカイダの崩壊に直接貢献した。アフガニスタンでの戦闘で特殊部隊は大成功をおさめたが、そのおもな理由は、訓練とまったく同じように行動できたからであった。司令官にとっては軍の力を何倍にもしてくれる存在であり、斬新な「スマート兵器」と見なすこともできよう。

世界各国の特殊部隊の兵士に共通して見られる特徴に、この一種独特な戦闘に徹底的にうちこむのだという強烈な意識があげられる。ぜひ覚えておいてほしいのだが、どの特殊部隊も隊員は志願者のみであり、この事実は、軍隊組織が弱体化している時代では特に重要なことだ。隊員の中には刺激を求めて志願する者も入れば、この職を使命だと感じて入隊する者もいる。特殊部隊の一員になるということは、ハイレベルな専門技術・専門知識の習得に全身全霊でうちこむことにほかならない。特殊部隊の兵士を際立たせている要因は、こうした考え方にある。特殊部隊の兵士は全員が、プレッシャーを管理・処理する能力を基準に選抜される。厳しい選抜過程を終えると、つねに訓練を受けて態勢を整えておく日々が続く。正規軍部隊とは異なり、特殊部隊は戦時でも平時でもすぐに行動を起こすことができなくてはならない。部隊の中には、グリーン・ベレーやイギリスのSASなど、いくつもの技能をマスターしなくてはならない部隊もあれば、対テロ任務など特定の分野を重点的に扱う部隊もある。専門分野が何であれ、その道では最高のプロである。隊員たちの生きる世界は、命を懸けた真剣勝負の場であり、隊員一人一人は失敗したらどうなるのかをよく理解している。だからこそ、特殊部隊の任務は「ハイリスク・ハイリターン」と考えられており、通常はこのことを踏まえて特殊部隊をいつどこに投入するかが決められている。

本書に出てくる部隊の多くは、いままで出版物でとりあげられたことがなく、本書を読めば、こうした部隊が行動する理由の一端を知ることができる。選抜方法、訓練方法、技能、装備なども、細かい点まで正確に紹介されている。この『ヴィジュアル版 世界の特殊部隊——戦術・歴史・戦略・武器』を上梓することで、特殊部隊の一員となるための条件について理解を深めてもらえれば、幸いである。

アメリカ空軍特殊作戦軍団  
マイク・マッキンニー少佐





# 陸の特殊部隊

2001年9月11日の悲劇を境に、「特殊部隊」という言葉が世界各国のニュースで大々的にとりあげられるようになり、将来的にはテロとの戦争だけでなく正規軍との戦いでも重要な役割をはたすものと見られている。特殊部隊は姿や気配を察知されることなく配置につくことができるため、場所や日時を知られることなく攻撃を実施でき、各国政府にとっては効果的・効率的な強力兵器なのである。



左：「気をつけ」の号令に姿勢を正すフランス軍第6外人兵連隊の外国人兵士。1991年の「砂漠の嵐」作戦で。

## アイルランド ■ ■ 陸軍レンジャー部隊

Sciathan Fianoglach an Airm (Army Rangers Wing)

陸軍レンジャー部隊はアイルランド共和国の特殊部隊で、対テロ任務も担当している。また、国連の平和維持軍に参加しておおいに活躍している。

キルデア州のカラー駐屯地に本部を置く陸軍レンジャー部隊は、アイルランド軍で対テロ作戦と特殊作戦を担当する部隊である。兵力は100～125人にすぎないものの、隊員は非常に高い専門技能をもち、徹底的に鍛えあげられているため、その力は部隊規模の小ささを補って余りある。初めて結成されたのは1970年代初頭で、まずアイルランド陸軍から有能候補者を25名ほど選んで基幹人員とし、アメリカのジョージア州フォート・ベニングに派遣して特殊部隊訓練を受けさせた。設置後は、さまざまな警察部隊や特殊部隊と連絡をとり、人質救出作戦や対テロ作戦についてアイルディアを交換した。

アイルランド共和国はイギリスと密接な関係があり、アイル

ランド軍もイギリス国内にある数多くの重要地域で専門的な軍事訓練を受けているが、SASとの交流や作戦訓練は、北アイルランドの政治状況が今も不安定であるため、行なわれていない。陸軍レンジャー部隊に課せられた活動任務は、対テロ作戦、治安妨害、VIP警護、対反乱作戦、襲撃、人質救出、秘密偵察などである。

アイルランド軍には正規兵が18000人、予備役兵が22000人しかいないが、世界各地で国連が行なう平和維持活動を支援しておおいに活躍しており、危機的状況が発生した場合にはただちに陸軍レンジャー部隊を派遣する。アイルランド国民は、自国の特殊部隊の能力をおおいに誇りに思っているが、それも当然で、なぜならどの隊員も非常に厳しく非常に長い訓練コースをくぐりぬけているからだ。入隊をめざす者は4週間の過酷な選抜訓練を通過しなくてはならず、合格して初めて、6か月間続くレンジャー部隊の基礎技能

訓練を受けてよいとみなされる。この基礎技能訓練では、火器と爆薬のあつかい方、人質救出、野戦医療、近接戦闘、サブバイバル術、登山、長距離パトロール、基礎パラシュート降下などを学ぶ。候補兵は、この基礎コースが終わったら、もっと専門的な訓練コースに志願してもよい。専門コースには、HAHO（高高度降下高開傘）およびHALO（高高度降下低開傘）作戦、ファースト・ローピング、爆発物処理、戦闘時の自動車運転法、ボート操作法、水陸両用作戦、狙撃訓練などがある。

使用兵器は、オーストリア製の5.56ミリ・ステアー AUGアサルト・ライフル、M16アサルト・ライフル（M203グレネード・ランチャー装着）、SIG P226ピストル、レミントンM870ショットガン、アキュラシー・インターナショナルAI96スナイパー・ライフル、HKMP5サブマシンガンなど。

**アメリカ** **アメリカ特殊作戦軍団 (USSOCOM)**

US Special Operations Command (USSOCOM)

**アメリカ陸軍特殊作戦軍団 (USASOC)**

US Army Special Operations Command (USASOC)

**第 75 レンジャー連隊**

75th Ranger Regiment

**グリーン・ベレー**

Green Berets

アメリカ陸軍特殊部隊の活動は、USSOCOM が統括している。USASOC は USSOCOM の陸軍部門であり、管轄下の精鋭部隊には、特殊部隊グループと第 75 レンジャー連隊などがある。特殊部隊グループは、ベトナム戦争当時はグリーン・ベレーの名で広く知られた部隊で

あり、レンジャー連隊は、アメリカ陸軍で最も由緒ある連隊である。

特殊部隊がアメリカの歴史に登場したのは 17 世紀と古く、ロバート・ロジャーズ少佐が当時のアメリカ軍には不正規戦への備えが必要だと判断し、アメリ

カ最初の特殊部隊であるレンジャー部隊の創設に着手したのが始まりである。その後数百年にわたり、個々の将校や兵士が不正規戦の戦術や戦略を用いてきたが、第 2 次世界大戦になって

下：演習でボートの陰に身を隠すアメリカ特殊部隊隊員。



ようやく誰もが、特殊部隊の必要性を軍として正式に認めなければならないと考えるようになった。こうしてアメリカに戦略事務局 (OSS) が設けられ、第2次大戦中の不正規戦を統括したが、その能力には限界があることがあきらかになり、それを受けて1950年代初めに第10特殊部隊グループが編成された。

こうした状況に変化が現れてくるのは、アメリカがベトナムに介入し始めてからだ。その原因の1つはケネディ大統領自身

が特殊作戦部隊 (SOF) に関心をもっていたため、事実、自ら創設した「グリーン・ベレー」に、トレードマークとして有名な緑色のベレー帽をかぶる許可を与えたのもケネディ本人にほかならない。

ベトナム戦争が終わると、SOFは陸軍内部で兵力を縮小され、その存続さえ危ぶまれるほどになった。ついに1980年には「イーグル・クロー」作戦失敗 (「デルタ・フォース」参照) という最悪の事態をむかえ、その結果、

統合対テロ任務部隊と特殊作戦諮問委員会が結成された。

それから数年にわたりアメリカ軍内部で特殊部隊の役割についての議論と組織内再教育を重ねた後、国防総省はアメリカ特殊作戦軍団 (USSOCOM) を発足させた。USSOCOMは陸・海・空軍のSOF隊員で構成され、その数は現役と予備役を合わせて約46000名に達する。部隊の編成は以下のとおり。

アメリカ陸軍特殊部隊——第75レンジャー連隊、第160特殊作戦航空連隊 (SOAR)、心理戦部隊および民事部隊。

アメリカ海軍特殊部隊——SEALs、特殊舟艇部隊、SEALs輸送部隊。

アメリカ空軍特殊部隊——特殊作戦飛行隊 (固定翼機隊と回転翼機隊)、外国国内防衛飛行隊、戦闘気象中隊。

## アメリカ陸軍特殊作戦軍団 (USASOC)

USASOCの役割は、その指揮下に高度な訓練を受けていつでも緊急展開でき、派遣地域の事情に通じた特殊作戦部隊 (SOF) をそろえ、国家指揮権限者 (NCA。大統領と国防長官)、地域総司令官およびアメリカ大使とその随員からの幅広い要請に応えられるようにすることであ

左：ノースカロライナ州ポープ空軍基地で、アフガニスタンでの作戦に備えて訓練するアメリカ特殊部隊の戦術航空統制員。前方航空統制官の役割は、特殊作戦の世界で急速に大きくなってきている。攻撃を現場で直接確認する存在に勝るものはないからだ。





上：重武装したLSV(軽攻撃車両)。驚くほど多数の兵器を揃えている。

る。地域総司令官の担当地域は、さらにいくつかの軍団に分割されている。1999年にSOFが派遣された国と地域の数には152に上る(機密任務および特別閲覧規制措置を受けている任務を除く)。今も常時約5000人のSOF隊員が60か国に派遣されている。SOF隊員に求められる資質は任務遂行に何がよかまで決まり、具体的には、語学力、地域への順応力、特殊装備・訓練・戦術のマスター、部隊構成を柔軟に変えられる能力、任務の政治的背景の理解などである。

1989年12月1日に結成され、中將を指揮官とするUSASOCは、USSOCOMの陸軍部門であり、以下の部隊を指揮統制する。

現役の5個特殊部隊グループ



上：1991年2月にクウェートとイラクで実施した「砂漠の嵐」作戦では、アメリカ特殊部隊隊員はオフロード用バイクを多用した。



と、陸軍州兵（ARNG）の2個特殊部隊グループ。大隊数は、現役が15個、ARNGが6個。

現役の1個レンジャー連隊（第75連隊）。編成は3個大隊。

現役の1個特殊作戦航空連隊（第160 SOAR）とプエルトリコ駐留の1個分遣隊。

予備役の4個民事（CA）部隊、予備役の7個CA旅団、現役の1個CA大隊、および予備役の24個CA大隊。

現役の1個心理作戦グループと、予備役の2個心理作戦グループ。大隊数は、現役が5個、予備役が8個。

現役の1個特殊作戦支援軍団。その編成は、1個特殊作戦通信大隊（第112大隊）、1個特殊作戦支援大隊（第528大

隊）、および6個特殊作戦戦域支援分隊。

現役の2個化学偵察分遣隊（CRD）と、予備役の2個CRD。

ジョン・F・ケネディ特殊戦センター&学校。その役割は特殊戦の理論研究で、陸軍特殊部隊を対象とした訓練コースを設け、民事、心理作戦、敵地および敵手脱出、サバイバル、尋問耐久などの訓練を実施している。

### 第75レンジャー連隊

第75レンジャー連隊は世界でも屈指の優秀な軽歩兵部隊であり、アメリカ陸軍特殊作戦軍団（USASOC）の中核となる部隊である。ジョージア州フォート・ベニングに本部を置くレンジャー連隊は、高度な訓練を受

上；アメリカ特殊部隊がフィリピン軍兵士に、近接戦闘中に家屋へ突入する方法を実演しているところ。

けて高い士気をほこる隊員2300名を擁し、3個大隊で構成されている。各大隊は3個戦闘中隊からなり、中隊には3個小隊が所属し、全小隊は兵器小隊の支援を受けている。

任務記述書には、第75レンジャー連隊の任務が次のように記されている。

レンジャー連隊の任務は、あらゆる作戦環境下で、特殊作戦および軽歩兵作戦を計画・遂行することである。連隊にとって最重要の特殊作戦任務は、直接行動（DA）である。連隊が実施するDA作戦は、他の特殊作戦

部隊の支援を目的としてもよいし、他の特殊作戦部隊の支援を受けてもよい。任務は、連隊単独で実施してもよいし、通常部隊の軍事作戦と連携して行ってもよい。また、ある任務の遂行が通常軍の軽歩兵部隊や航空部隊では不適切または不可能な場合、レンジャー連隊が特殊軽歩兵隊として行動してもよい。つまり現代のレンジャー連隊は、300年前に前身の部隊が実施したのと基本的に同じ種類の任務を実施するのである。

レンジャー連隊はアメリカ陸軍から強力な支援を受けており、他の部隊より優先的に展開される。予算だけでも歩兵師団1個分が確保されている。レンジャー連隊は、デルタ・フォースや第160特殊作戦航空連隊(SOAR。通称「ナイト・スターカーズ」)など他の特殊部隊とも緊密に連携をとりながら活動する。つねに1個中隊を最大限の作戦即応態勢にして、世界のどこへでも数時間以内に展開できるようにしている。隊員は、陸・海・空のいずれからでも敵領内に侵入できるよう訓練を受け、外部からの支援なしに5日間は単独で行動することができる。つねに最大限の火力を保持しながらも柔軟な戦術を実行できるようにするため、レンジャー連隊の使用する兵器は、すべて人が携帯できるものでなくて

はならない。連隊は多種多様な任務を遂行することができるが、専門とするのは、救出後送、捕獲逮捕、軽攻撃、および戦術偵察である。市街戦のスペシャリストでもあり、特に夜間の作戦は得意で、市街戦用の装備も充実しており、その能力は1993年にソマリアの首都モガディシュで実証されている。

レンジャー連隊の訓練はレベルがきわめて高く、隊員は1年のうち11か月を訓練で過ごし、厳しい訓練から解放されるのは、わずか2回の休暇の時だけである。連隊は、世界中のさまざまな環境下で訓練を実施しており、その範囲はジャングル、砂漠、極地方、山岳地帯など多岐にわたり、これによって兵士の体が異なる気候にも対応できるようにしている。現在、連隊が訓練でおもに重視しているのは、全隊員必修の4つの基本技

能である「ビッグ・フォー」つまり射撃術、格闘教練、医療訓練、および体力トレーニングの4つだ。

水準の高さはもちろん、その並外れた名声を維持するため、隊員の選抜はきわめて厳しい。表向きは、アメリカ陸軍の兵士には全員に入隊の自由が認められているが、現実には少々違っている。志願者はまず3週間のレンジャー教化段階(RIP)を通過しなければならない。ここで選抜された後、志願者はレンジャー学校入学のため、8か月間レンジャー大隊とともに準備を行なう。RIPに参加するには、志願者は事前に基本訓練と歩兵訓練を修了し、その後ジョージア州フォート・ベニングの空挺学校で3週間のパラシュート訓練コースを受けていなければならない。

RIPに合格した志願者は、大隊



右：M4カービンを手にするアメリカ軍レンジャー部隊隊員。レンジャー部隊は世界でも有数の軽歩兵部隊であり、祖国の期待を裏切ったことがない。



## レンジャー部隊信条

自覚 (Recognize) の R：私は、自分がレンジャー隊員に志願したことを自覚し、自分の選んだ職務の危険性を十分に認識したうえで、我がレンジャー連隊の威信、名誉、そして強い「団結心」を守るよう、つねに努力します。

認識 (Acknowledge) の A：私は、レンジャーが陸・空・海の戦場で最先端に行く精鋭であることを認識し、レンジャー隊員として祖国からどの兵士よりも速くへ素早く移動し、激しく戦うよう期待されていることを忘れません。

絶対 (Never) の N：私は、絶対に仲間を失望させません。つねに神経を鋭敏にし、体を健康に保ち、道徳的にまちがったことは行わず、いつでも課せられた任務以上のことを行ないます。それがいかなるものであれ、任務は 100 パーセントあるいはそれ以上達成します。

堂々 (Gallantly) の G：私は、自分が特別に選ばれて高度な訓練を受けた兵士であることを堂々と世界中に知らしめます。上官への敬意、整った服装、装備にはらう細心の注意、すべての面で他の兵士が従うべき手本となります。

全力 (Energetically) の E：私は、祖国の敵に対して全力でたち向かいます。誰よりも優れた訓練を受けた私は、もてる力をすべて使って戦い、戦場で必ず敵をうち倒します。レンジャーに降伏という言葉はありません。倒れた仲間が敵の手に渡るようなことはさせず、いかなる状況の下でも祖国の恥になるようなことはしません。

進んで (Readily) の R：私は、レンジャー部隊の目標達成のために戦い、任務を完了するのに必要な威力を自ら進んで示します。たとえ最後の 1 人になろうとも、この決意は揺るぎません。「レンジャーが先頭に立て」

の隊員とともに技能と体力を磨いてレンジャー学校入学に備え、いよいよ真剣勝負の場に臨む。

レンジャー学校は 3 段階に分かれ、それぞれアメリカ南東部の異なる場所で訓練が実施される。ただし、いずれも過酷なことに変わりはない。第 1 段階はフォート・ベニングの第 4 レンジャー訓練旅団 (RTB) で行なわれ、ここで訓練兵を待っているのは、実際の戦闘と同じ条件のもとで行なわれる一連の長距

離行軍である。行軍ではわずかな食事と睡眠しか許されず、訓練兵は、つねに完全装備で行軍しなければならないため、くたくたに疲れはてる。これが終わると、ジョージア州ダロネガの第 5 RTB へ移動し、山岳訓練を受ける。最終段階はジャングル・沼地訓練で、エ格林空軍基地の第 6 RTB で実施される。訓練中は階級章をいっさい身につけない。レンジャー部隊では、すべての隊員にリーダーシップ

技能を発揮するよう求められるからだ。

レンジャー学校を修了した者には、実に多様で困難ではあるが、やりがいに満ちた輝かしい職務が待っている。入隊が認められてからも、レンジャー隊員はさらにさまざまな訓練を受けることができ、たとえば、秘密偵察、爆破、通信、野戦医療、狙撃、車両操作、水泳、スキューバ潜水、HALO および HAHO によるパラシュート潜入などの技能を身につけられる。レンジャー連隊に勤務することは、正規歩兵部隊から特殊部隊へ移るための当然の足がかりともみなされており、多くの隊員が後にデルタ・フォースへ入隊する。

## 第 75 レンジャー連隊の歴史

レンジャー連隊は、創立以来 300 年近くにわたる長く輝かしい歴史をもち、アメリカ陸軍の中でも最も由緒ある連隊である。「レンジャー (Ranger)」という名は 17 世紀に起源をもち、当時の開拓者が険しい地形をのりこえ 1 日でどれほど前進できたのかを言い表すときに、たとえば「今日は 8 マイルも進んだ (We ranged eight miles this day)」というふうに関 range という言葉を使ったことに由来する。

### 1754 ~ 63 年

最初のレンジャー部隊をコネチカット植民地のロバート・ロジャーズ少佐が創設し、フレンチ・インディアン戦争でイギリス軍側に立ってフランス軍と先住民軍を相手に戦う。最も有名な活躍はアプナーキ族を相手に戦った戦闘で、この部族はモン